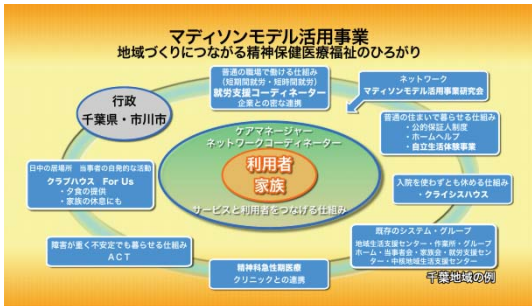




北九州地域では、産業医科大学が中心となって、統合失調症などの精神疾患に関するパンフレットや研修教材資料を作成しました。ご本人だけでなくご家族など周囲の方にも正しい知識と情報を持っていただくことが大切です。



岩手地域の実務者ネットワークでは、精神科医を交えて事例検討を行い、自殺の危険性のある精神疾患患者に対するケース・マネジメントを学ぶという取り組みも行っています。困難を抱えた地域の精神障害者に対して、精神医療の実践、福祉サービスの活用、生活支援などを行うためにケース・マネジメントの視点が重要です。



千葉地域では、ケアマネージャーやネットワークコーディネーターが、統合失調症を抱えた当事者や家族と、地域の精神保健医療福祉サービスを繋げる仕組みを作っています。単身生活を目指して自立生活を体験でき、家族等と一時的に距離をおく際に利用する宿泊場所(クライシスハウス)、当事者のステーション的な場(クラブハウス)、自立生活体験事業、復職支援コーディネーターなどの様々な社会資源やサービスを、当事者のニーズに合わせて有効活用できるように工夫しており、有効に機能しています。



統合失調症患者に対する支援について、千葉地域の長竹教夫さんにお話を聞かせていただきました。
[中略]

物質関連障害(アルコール関連障害等)、統合失調症等の精神疾患による自殺の予防

■この章のまとめ

- 自治体やNPO等で実施している既存の事業や地域の自助グループ活動の状況を把握し、連携体制を築く

ここでは、アルコール関連障害などの物質関連障害や統合失調症等の精神疾患による自殺の予防について取り上げました。非常に重要な領域ですので、今後さらに対策を進める必要があります。

6. 職域へのアプローチ

	<p>次は職域へのアプローチです。勤労者や離職者のメンタルヘルスの不調を予防するとともに、早期発見・早期治療へつなげます。</p>
	<p>地域の事業場のリストを作成して、パンフレットやDVDなどの啓発媒体の配布を行います。仙台地域では、心の健康度チェック票や医療機関リスト、相談窓口一覧などを啓発資料に掲載して地域の事業場へ配布しています。</p>
	<p>秋田地域では、事業場向けのポスターも作成しました。ポスターのサイズを小さめに作成し、事業場でも掲示しやすいようにするなど工夫をし、「のしろ健康 21 推進委員会」に配布を依頼したり、医師会、薬剤師会、ハローワーク、JA、労働基準監督署、商工会議所などの窓口に配置しました。</p>
	<p>北九州地域でも、事業場向けのポスターを作成し、商工会議所を通じて中小企業に配布しました。</p>



職域でこころの健康やうつ病に関する研修会も行うことも大切です。また、産業医などの産業保健スタッフと協力してうつのスクリーニングなども実施し、ハイリスク者の早期発見に繋がります。




岩手地域の洋野町では、職員や関連機関の従事者に対して、産業医と協力して職場の労働衛生とメンタルヘルスのチェックを行い結果報告会を開きました。悩みがあるときにお酒で紛らわすなど誤った対処行動をとることなどの問題が明らかになりました。ハイリスク者に対しては産業医の健康相談に結びつけました。



北九州地域では、約 500 名の市の職員に対して研修を行ったり、市内の小中学校の職員を対象にメンタルヘルス研修会を実施しました。



このような職域での自殺対策に取り組んでいる千葉地域の豊田加奈子さんにお話を聞かせていただきました。〔中略〕



商工会議所に「こころの健康相談会」を設置

(1) 相談会のチラシを機関紙とともに事業場に配布

(2) 広報誌「広報なかま」(月2回 全戸配布)にも掲載

北九州地域の例

北九州地域の中間市では、中小零細企業の登録が多い中間商工会議所と協力して対策を進めています。商工会議所に「こころの健康相談会」を設置し、商工会議所や市の広報誌などを活用して周知を行っています。



この中小零細企業に対する自殺対策の活動について、北九州地域の小嶋秀幹さんにお話を聞かせていただきました。〔中略〕

離職者を対象としたアプローチ



岩手地域の例

無職者の自殺数は多く、これらの層を対象とした介入も必要です。一つの方法としては、健康保険や年金の手続きのために来所した無職者、再就職を目指してハローワークに来所した離職者を対象にした介入です。

岩手地域では、ハローワークなどにパンフレット等を配備しています。ハローワーク等の機関でもストレス対処などの研修を実施しているため、研修会の際にも資料を配付させていただきます。このような方法を用いて、ハイリスク者を早期に発見し、医療機関や地域のサポートに繋げていきます。




離職者に対する自殺対策活動について、北九州地域の小嶋秀幹さんにお話を聞かせていただきました。〔中略〕



平成21年11月、緊急雇用対策としてハローワークにおけるワンストップサービスが全国各地で行われました。ハローワークのワンストップサービスでは、別々の窓口で対応していた雇用の相談や住居の確保、生活支援などを一つの窓口で行います。

実際にワンストップサービスを行った岩手地域の藤尾修さんにお話を聞かせていただきました。
〔中略〕

 **職域へのアプローチ**

■この章のまとめ

- ・事業場、医師会、産業医、地域産業保健センター等とネットワークを形成し、連携して自殺対策に取り組めるようにする
- ・無職者、離職者のうつ状態、自殺の危険性を把握し、健康保険や年金の担当窓口、ハローワーク等での支援を行う

ここでは、職域の自殺対策について取り上げました。ワンストップサービスのような新たな取り組みも行われました。今後職域の対策をさらに進めていくことが求められます。

7. 地域責任者による各地域の取り組み状況の紹介

	<p>これまで戦略研究で行ってきた複合的自殺対策プログラムを領域毎に取り上げてきました。ここでは、実際にこの複合的自殺対策プログラムを行ってきた参加地域の責任者にお話いただきます。それでは複合介入グループの取り組みをお話しいたします。</p> <p>青森地域の取り組みについて岩佐博人さんにお話しいたします。〔中略〕</p>
	<p>秋田地域の取り組みについて本橋豊さんにお話しいたします。〔中略〕</p>
	<p>岩手地域の取り組みについて酒井明夫さんにお話しいたします。〔中略〕</p>
	<p>南九州(鹿児島)地域の取り組みについて四元俊彦さんにお話しいたします。〔中略〕</p>



南九州(宮崎)地域の取り組みについて石田康さんにお話しいただきます。〔中略〕



次に、大都市対策グループの取り組みをお話しいただきます。仙台地域の取り組みを栗田主一さんにお話しいただきます。〔中略〕



千葉地域の取り組みについて亀井雄一さんにお話しいただきます。〔中略〕



北九州地域の取り組みについて中村純さんにお話しいただきます。〔中略〕